



農業委員会だより

西東京市の風と緑～

第12号

編集：発行 西東京市農業委員会
(保谷庁舎)

住所：西東京市中町1-5-1
TEL：042-438-4044(直通)

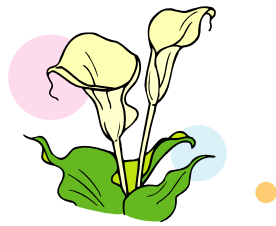


写真2



写真1

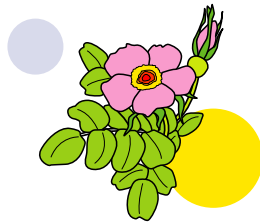


写真4



写真3

受賞おめでとうございます。

第三十一回農業後継者顕彰

東京都知事賞

田倉 寿治・由祈子 様(写真1)

向台町六丁目

※この度は、夫婦共々表彰していただき嬉しく思います。今後共、時代に即した都市農業経営で親子三世代、高品質な野菜の生産に取り組んでまいります。

第五十一回企業的農業経営顕彰

東京都農業会議会長賞

下田 茂昭・澄江 様(写真2)

住吉町二丁目

※受賞については、農業委員会など各関係機関の多年にわたるご指導の賜と深く感謝しております。これを契機に今後とも精進し、西東京市の農業と地域社会の発展のためにも、精一杯頑張っております。

平成二十三年度

第三十八回農業功労者感謝状

本橋 英次 様(写真3)

田無町二丁目

※大変すばらしい賞をいただき、ありがとうございました。

平成二十三年度

北多摩地区農業委員会連合会

優秀農業経営者表彰

矢ヶ崎 登代治 様(写真4)

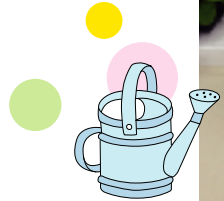
向台町一丁目

第六十一回
関東東海花の展覧会
受賞者

金賞
関東地域花き普及振興協議会長賞
濱中 昇一様
東町四丁目
種類名：ゼラニウム
品 種：ブルズアイ



銀賞
本橋 保昭様
北町五丁目
種類名：ナデシコ



各種税金や農業機材の設備投資等で、農業収入に見合った経営が難しくなったためである。昔のようなゆったりとしたのかな生活は一変し、一年一年が何と早い事か。周りを見渡すと、農地が減り、農家が減り、緑が減り続けている。都市農業を守るのは、あらゆる面から大変な時を迎えている。現在農業に携わる人達、又これから新規に就農しようとしている人達のためにも、希望に満ちた農業意欲をかき立てる政策を、なお一層行政に期待したい。

「米一粒 農やる人の玉の汗」

小峰 和美

子供の頃、親に「ご飯粒は、残さず食べなさい」とよく言われたものです。お茶碗に一粒も残さず、最後はお茶で綺麗にしています。何で？というのには、後に自分が農作業を始めたからというのには、言うまでもありません。畑も耕しました。作付けもしました。草取りもしました。収穫の喜びは、収穫までに額に汗をかいた分いっぱいです。お米の一粒一粒に尊い農家の方の苦勞が、詰まっているのです。

現在の農業は、専業農家は皆無

J A東京みらいと
J A東京あぐりとの
合併について

「J A東京みらい」と「J A東京あぐり」は、これまで地域農業の振興と組合員・地域住民の生活向上を目指し活動を続けておりました。しかし、農業を取り巻く環境は、農地の減少、組合員の高齢化、後継者不足等多くの課題を抱えている状況です。さらに、J A経営においても、世界的な景気の後退と他業態との競争激化により、安定的な収益確保が危ぶまれております。

このような状況のなか、「J A東京みらい」と「J A東京あぐり」では、農業をめぐる情勢が激変している環境に対し ①更なる経営合理化 ②経営基盤の確立 ③多様化する組合員・利用者ニーズへの対応等を図るために、J A合併の協議を重ねてきました。

- 平成22年2月18日より：両J Aの常勤による合併推進協議会、組織代表理事の幹事会を開催
- 協議会22回
- 幹事会14回
- 平成23年11月24日：合同会議合併までのスケジュール

に等しく、兼業農家が主流で、相続が発生すれば宅地並みの課税が課せられ、年々減少しているのが現状であります。農家は、先祖から受け継いだ土地を守っていくという責任があります。国の施策には、あまりにも農家に対して「いたわり」という優しさが感じられないと思います。江戸時代には、「土農工商」と身分が高い地位に置かれておりましたが、内容はずいぶん負担をかけられていたと聞いています。自民党政治から民主党政治に替わっても、農家に対する温かい施策は、江戸時代と同様に何一つ行われていないのではないのでしょうか。

私たち農やる人たちは、安全・安心の農作物を供給するために額に汗を流し、喜んで食してもらえ、ために、夏の暑い日や、冬の寒い日にもひたむきに農作業をしています。美味しく食べてもらうために、日夜努力している農家です。

「米一粒 農やる人の 玉の汗」 たった一粒の米ですが、そこには、常日頃から努力している農家の方々の汗がしみ込んでいることを理解していただきたい。



■平成23年12月：各地区事前合併説明会

■平成24年1月27日：合併準備契約調印式(於 パレスホテル立川)

■平成24年2月28日：臨時総代会「J A東京みらい」と「J A東京あぐり」双方とも実施

■平成24年6月22日：通常総代会「J A東京みらい」と「J A東京あぐり」からの理事承認等

■平成24年10月1日：合併ただし、吸収合併方式とし、「東京みらい農業協同組合」が存続組合となります。通常総代会後に、事業別専門部会を発足させ、合併に向けてのすり合わせを実施する予定です。



1月27日 調印式の様子

昔の頃

相田 敏雄

昔、私が幼かった昭和20年代後半頃は、まだ自動車が珍しく砂利道を土埃をまき上げて走る姿をたまに目にする時代であった。

どこかに出掛ける時は、ほとんど自転車か徒歩で、今と比べると随分時間と体力を使った行動範囲の狭い生活だった。

また、朝、夕、農道を「竹かご」や「くわ」を背負いバランスととりながら、腰を90度近く折り曲げて歩く「老人」を、よく目にした記憶がある。

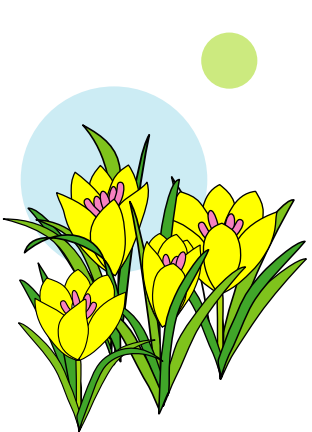
今にして思えば、あの人達はいったい何歳くらいだったのだろうか。自分が今あの頃の年齢なのだろうか。

しかし、今は街中でそんな姿を目にする事はめったにない。

食生活の欧米化で、毎日のように栄養価の高い肉や魚が食卓に並び、豊の生活からイスやベットの生活に変わった。

農業分野でも就農者の高齢化に伴い、労力軽減を目的としたさまざまな機械が開発され、腰を曲げるの重労働も大分解消され楽になった。

その反面、農業を続けて行くハードルは高く、厳しさを増している。



農との出会い
市民農業体験記

豊田 陽子

体験農園との出会いは、ある日曜日の朝、夫が市報の募集記事を見つけた時に始まる。善は急げと電話に飛びついた。そう言えば以前、市民農園を始めた知人から、仕事帰りの夜の畑でぼうっとしていると癒やされる……などとアラフオー男子がしみじみ話していた。始めてみると、手塩にかけた野菜がどっさり獲れるのはもちろん、農作業を楽しみながら、園主のNさんと参加者同士のやりとりも心地よい。我家も、その農園にすっかかり根付いてしまった。

Nさんの農家としての畑には、他にもNさんの片腕として、作業にあたる助っ人が何人もいる。K市には「農業大学」(市事業)が、ずいぶん前からあるとのこと。入学希望者は、今年も定員を超えたそうだ。授業料を払って、技術を身に付け、卒業後は研究生として専用

に用意された畑で実践する。

Nさんは大学の講師、助っ人の皆さんは卒業生なのだ。

Nさんは参加者には何も言わないうが、都市農業をとりまく現実には、厳しいと思う。農家でもない者に何がわかる、と言われそうだが、問題意識だけは持っているつもりだ。某大学のランドスケープデザイン(意訳すると「造園」とか「造形」)コースで「里と農」に関するカリキュラムが2年前から新たに始まったのは、社会背景や学生の関心の高まりがあるからだろう。私も授業の雑用兼アシスタントとして、年

数回ほど野外実習に同行するのだが、ある有機認定農家さんのお話は、農業の課題を凝縮したような内容であった。先代が農業で体を壊すのを見てきたご主人が、何年もかけて完全有機に転換。そのご主人も亡くなられてしまった。農

には、食物生産の他、環境保全機能があり、公共性の高い産業：と高く評価される割に、農業が生き残れるか否かは農家個人の努力に大きく依存している。

西東京市では、「都市と農業が共生するまちづくり事業」の一環である「農のア카데미」がいよいよ始まった。体験に来る子供達が何かを感じ、私達大人もそこから学ぶものがきつとあるだろう。

農業委員会の構成

会 長 村田 秀夫
職務代理 保谷 隆司

◎ 部会長

編集部会

◎野口長太郎
小峰 和美
大谷 孝良
本橋 昭治
相田 敏雄
増田 和史

- 地域の農業経営や農家生活に関する情報
- 農家や消費者の意見、悩み、出来事、各種グループの活動など紹介
- 農業委員会をアピール
- 農業振興計画について

農地部会

◎河合 芳治
浅野 高司
新井 広
野口 孝雄
尾林 長一
濱野 祐次

- 農地の肥培管理状況(適正管理)について農地管理の基準を検討
- 納税猶予適用農地の肥培管理の徹底化
- 農地利用状況調査について(農地パトロール)

運営部会

◎高橋 雅則
下田 幸男
内田 繁勝
本橋 武男
高田 兼二
佐藤 公男

- 農業委員会活動に関すること
- 表彰に関すること
- 視察に関すること
- 研修会、勉強会等について

農地利用状況調査 (農地パトロール)について

平成二十四年十月下旬に、農地利用状況調査を実施します。事前に各地域の農業委員が、農地を見回り、肥培管理がされていない農地や以前確認した農地と形状が違うなど、農地法上問題が見られないか確認を行います。市内農業者の皆様は、日頃より忙しい農作業に勤しみながら、農地管理にもご苦勞のことと思いますが、今一度、ご自身の農地をご確認いただき、農地利用状況調査へのご理解・ご協力をお願いいたします。

事務局職員の変動について

平成二十四年四月一日付の人事異動がありましたので、ご紹介します。

新職員

産業振興課長兼農業委員会事務局長

萱野 洋

産業振興課 課長補佐(兼農業係長)

兼農業委員会事務局書記

五十嵐 豊

新規採用

産業振興課農業係兼農業委員会事務局書記

照屋 翔

なお、前任の宮坂哲史主幹兼事務局長は、教育部学校運営課へ、稲

船準主事は、主任に昇進し、都市整備部都市計画課へ異動されました。お疲れ様でした。

援農ボランティア 受講生の受入指導農家募集

援農ボランティアの講座の受講を希望する方に対し、育成・指導していただける農家の方を募集しています。ご希望の方、詳しい内容を確認されたい方につきましては、産業振興課農業係まで、ご連絡ください。

なお、現在の募集は、来年度(平成25年6月から)からご協力いただける方となります。

編 集 後 記

今号から新メンバーによる「農業委員会だより」を編集いたします。今後も、新編集部会が丸となり、農業に関する話題や情報を収集し、お知らせします。皆様からの寄稿をお待ちしていますので、農地法や営農に関する情報がありましたら、ご連絡ください。今春は、全国的に寒波や雨天が長引き、農作物にも影響があった模様です。どうか健康に留意し、頑張ってください。

編集委員一同